

# 令和2年度 諫早市在宅医療・ 介護連携支援センター運営事業 活動報告書

一般社団法人 諫早医師会  
諫早市在宅医療・介護連携支援センター  
(かけはし いさはや)

## 事業の目的

要介護者等が、住み慣れた地域で在宅生活の継続に必要な医療と介護サービスを円滑に提供できる体制を構築するため、専門職から在宅医療に関する相談に対して支援を行います。

また必要な情報を発信するなど、医療と介護事業者の連携をサポートすることを目的としています。

諫早市在宅医療・介護連携支援センター  
TEL : 46-3166 FAX : 46-3167



## 令和2年度 主な取り組み

### 「Kakehashi いさはや」情報紙の発行（資料1）

諫早市在宅医療・介護連携支援センター（通称名称：「かけはしいさはや」）は、平成30年8月の開所以来、医療・介護関係者の専門職研修会や市民講演会、お気軽座談会により在宅医療と介護の普及啓発に取り組んでいます。

また、在宅医療機関情報や在宅介護サービス、施設情報などの社会資源情報を収集・整理し、ホームページへの掲載などの取り組みも定着してきています。

3年目を迎え、関係機関に対し「かけはしいさはや」の役割や活動内容、また専門職の皆さんの視点から、相互に理解し合い医療と介護の連携の一助となるよう情報紙を発行しています。



## 創刊号

### 諫早市の在宅医療・介護を考える ～住み慣れた地域で

いつまでも自分らしく暮らす～

「地域包括ケアシステム」

「在宅医療・介護の連携」

「コロナ禍でも…」

- 諫早の在宅診療の現状について  
美南の丘クリニック 院長 松尾 彰先生
- 在宅医療・介護連携推進会議が開催されました
- 「かけはしいさはや」の取り組み



## 第2号

### 高齢者の暮らしをサポートする 住み慣れた地域で暮らすということ

専門職の立場から見える地域づくり～語らん場～

主任介護支援専門員 北嶋星子さん

医療ソーシャルワーカー 白濱正太郎さん

介護支援専門員 日高恵子さん

理学療法士 浦川春樹さん

- 市民講演会を開催しました
- 「在宅医療・介護関係者」研修会を開催しました
- 「かけはしいさはや」編集後記

## 令和2年度 主な取り組み

### ホームページのリニューアル

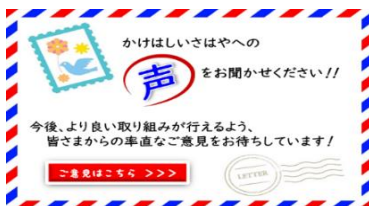
トップページのレイアウトやデザインを一新し、多く閲覧される項目や情報をダイレクトに検索できるように、スライダーを配置しました。

スライダーには、常時掲載するもののほか情報更新や新規情報などを掲載し、より見やすく、分かりやすい情報発信に努めます。



スライダー  
見たい情報を直ぐに  
検索できます

スライダーには、情報更新の際や新規情報を随時掲載します。



Kakehashi いさはや情報紙のバックナンバーを掲載してきます

研修会の開催案内やこれまでの開催状況をご覧になれます

## ア 地域の医療・介護の資源の把握

在宅医療に関する専門相談や退院時の相談支援に必要な情報収集のため、医療機関や介護事業所、高齢者施設にアンケート調査を実施し、ホームページに掲載している情報を更新した。

### 取り組み内容

#### ア 情報の更新

- ① 医療機関の情報更新は、三師会の協力を得て年1回更新を行った。(資料2)
- ② 介護事業所情報は、長崎県長寿社会課のデータを基に半年に1回更新した。(資料3)
- ③ 高齢者施設情報は、長崎県長寿社会課のデータを基に半年に1回更新した。(資料4)

イ 高齢者施設（軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型共同生活介護（GHI）の事業所）に対して情報更新のため、医療処置があっても入居可能なもの、看取り対応、費用、施設PRなどアンケート調査を実施した。(資料5)

ウ 訪問看護事業所における、24時間対応体制や対応可能な処置等についての情報を更新した。(参考1)

#### ホームページ掲載

在宅訪問医療機関情報	
在宅医療機関一覧	60件
訪問歯科医院一覧	41件
訪問薬局一覧	51件

高齢者施設一覧掲載件数			
介護療養型医療施設	3件	有料老人ホーム	15件
介護老人保健施設	4件	サービス付き高齢者向け住宅	16件
介護老人福祉施設	8件	軽費老人ホーム	4件
地域密着型介護老人福祉施設	8件	認知症対応型共同生活介護	24件
介護医療院	2件		

介護保険サービス事業所情報	
通所リハビリテーション	21件
訪問リハビリテーション	2件
デイサービス事業所	49件
地域密着型デイサービス事業所	34件
認知症対応型デイサービス事業所	7件
ショートステイ（短期生活）	16件
ショートステイ（短期療養）	13件
訪問看護ステーション	18件
訪問入浴	1件
小規模多機能型居宅介護	10件
訪問介護事業所	42件
福祉用具販売	11件
福祉用具レンタル	12件
巡回訪問	1件
居宅介護支援事業所	53件



医療処置があっても入居可能なもの、看取り対応、費用などを集約し、冊子にしました。

### 成果と課題

ア コロナ禍の中、介護サービス事業所や高齢者施設の訪問調査はできなかったが、アンケート調査を実施するなど情報の更新に努め、施設選択の情報提供や相談対応への活用ができた。

イ 医療・介護資源情報をマップ化し周辺状況も併せて把握しやすくなった。

ウ 高齢者施設等の訪問調査やアンケート調査を行い、現状の把握に努める必要がある。

## ウ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

地域包括ケアシステムの中心的機関である地域包括支援センターと顔の見える関係構築を図るため、現状や課題について相互に理解することができた。

### 取り組み内容

#### (1) 生活支援コーディネーターとの連携

地域包括支援センターが行う「介護予防・生活支援事業」の取り組み「語らん場」について生活支援コーディネーターの活動状況や社会資源など現状や課題について情報交換を行い、連携を図ることができた。

また、「語らん場」には、医師や介護支援専門員など専門職が参加され、地域づくりが進められていることなどの情報共有ができた。(資料1関連)



## エ 医療・介護関係者の情報共有の支援

### 取り組み内容

諫早市入退院支援連携ガイドブック（以下「ガイドブック」という。）については、医療機関及び介護事業所等への周知を行い、ホームページにスライダーを作成し、アクセスも簡単に見やすくした。

諫早市高齢介護課が行ったアンケート調査では、アンケート内容について精査・助言を行った。

### 成果と課題

今後アンケート調査結果からみえた「ガイドブック」の改善点を解消し、改定内容など医療機関や現場に対して、研修会などを通して周知するとともに、利用拡大を図ることが必要である。



3 入退院支援連携のフロー（数字は連携の流れを、●は具体的な内容を示しています）

	医療機関	ケアマネ
在宅		1) 担当している利用者・家族に、入院したら担当ケアマネに連絡するよう伝えておく ●担当の担当医とケアマネが連携し、ケアマネがケアマネとして役割を担う ●『ごんごんは、ケアマネです!』の活用 ●入院前準備やケアマネの役割を説明し、ケアマネがケアマネとして役割を担う
入院 (又は転院)	2) 「医療機関がケアマネを把握」または「ケアマネが入院を把握」どちらか早いほうが、3日以内に相手に電話連絡する ●電話連絡の中で情報提供のやり取りが必須だが、不要な連絡はしない ●医療機関がケアマネに連絡する際は、情報提供のやり取りを行うこととする ●緊急入院や急ぎ入院の場合は、必要となる連絡もある ●介護保険申請書類には、ケアマネがケアマネであることを記載する ●各医療機関への連絡方法は「協力医療機関窓口一覧」参照 ●特例の場合は、医療機関、事前に連絡する	3) 必要に応じて、入院時情報提供の提供 ●特例の場合は、医療機関、事前に連絡する
退院調整	4) 入院中の患者情報を双方で共有し、相互に協力して退院に向けた調整を開始 ●患者の退院希望（いつ、どこに退院希望か）について、退院調整チームの連携する ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ	4) 入院中の患者情報を双方で共有し、相互に協力して退院に向けた調整を開始 ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ ●退院調整チーム（退院調整チーム）へ
退院	5) 必要に応じて、退院時情報提供の提供 ●情報の提供が必要な場合は速速連絡する	5) 必要に応じて、退院時情報提供の提供 ●情報の提供が必要な場合は速速連絡する



居宅介護支援事業所や地域包括支援センターなどの医療・介護関係者、関係機関から医療機関情報や在宅療養等に関する相談に対して、電話や窓口での情報提供や助言に努めた。

また、要介護者等の退院時に際し、医療関係者や介護サービス事業者その他の関係者の相談に応じ、関係機関との連携を図り退院支援に努めた。(参考2)

相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談区分	合計	3	1	1	1	0	2	1	1	3	1	3	1	18
在宅療養 支援	①医療等に関する相談	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	1	5
	②介護等に関する相談	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
	③短期入院・入所に関する相談	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	④看取りに関する相談	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転・退院 支援	⑤医療情報に関する相談	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	⑥介護情報に関する相談	1	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4
その他	⑦苦情・クレーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	⑧その他	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	1	0	4
相談者		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談者区分	合計	3	1	1	1	0	2	1	1	1	1	3	1	16
ケアマネ	居宅介護支援事業所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
医療 関係者	病院、医院	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
	診療所（歯科含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	薬局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	訪問看護ステーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業所	在宅サービス事業所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	施設サービス事業所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
関係機関等	地域包括支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	行政機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市民	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	2	0	5
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
※相談内容と相談者の合計件数は、1相談者より複数の相談があったため一致しない。														

### 取り組み内容

地域の医療・介護関係者等から、在宅医療、介護サービスに関する相談を受け付けた。相談件数18件。医療処置の必要な方が入居可能な施設や、看取り対応可能な施設など、施設情報の問い合わせもあり、作成している施設個票を活用し対応した。

新型コロナウイルス感染症に関連した相談は6件。コロナ禍での各事業所・施設の対応に関する相談で、個別に聞き取りを行い対応した。

また、新型コロナウイルス感染症に関連した相談については、その都度、タイムリーな情報が求められ、当センターでの情報収集、発信は困難であった。

### 成果と課題

高齢者施設の詳細情報のリストはホームページへ掲載しているが、まだ活用されていない現状も見受けられたため、医療・介護関係者への周知がさらに必要である。

地域の医療・介護関係者等に対しZoomによる研修会を開催した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じた研修会とするため、Zoomを活用し医療・介護関係者が、最も知りたい新型コロナウイルス感染症及びその対策について、タイムリーな研修会を開催した。（資料6）



### 取り組み内容

テーマ：「新型コロナウイルス感染症について」  
 開催日：令和2年11月26日（木）19時～20時  
 会場：諫早医師会館（諫早市永昌町23番23号）  
 講師：福島喜代康先生（日赤長崎原爆病院院長）  
 座長：松尾彰先生（美南の丘クリニック院長）

#### 【講演内容】

- 1 新型コロナウイルスの流行状況
- 2 新型コロナウイルスについて
- 3 新型コロナウイルス感染症の診断
- 4 新型コロナウイルス感染症の治療
- 5 新型コロナウイルス感染症の感染対策

福島先生より診断や治療の最新情報や長崎県の現状、そして感染予防対策について詳しくお話いただき、参加者からの質問にも分かりやすく丁寧にお答えいただいた。



### 成果と課題

- 59事業所、施設から申し込みがあり、約160名の視聴参加があった。
- 初めてZoomを活用した研修会だったが、研修中のトラブルもなく流れもスムーズに運営することができた。
- Zoom研修会に初めて参加された方から、「意外に簡単だった」「気軽に参加できた」などの感想から、今後参加される事業所が増えていくことが期待できる。
- インターネット環境のある会場では、集まる研修との併用も検討できる。
- リモート研修が今後主流となることから、全体研修とグループ討議ができるようZoomの機能を十分に活用した研修とする必要がある。
- 研修会や意見交換会の開催について、事前の周知方法を検討する必要がある。

#### 【参加者からのご意見】

- 講演内容：
- コロナについて漠然と理解していたことが、明確になって大変よかった。
  - 新型コロナウイルスの正しい知識が、頭の中で整理できました。実際の症例なども聞かせていただき、非常に勉強になりました。
- Zoom：
- 音声も聞き取りやすく、リモートでも不便を感じなかった。
  - 初めてのzoom研修だったが、とてもわかりやすかった。

職員の資質向上のため、参加可能な研修会（WEB会議含む）に参加し研鑽に努めた。  
また、公立高校や県立看護学校の依頼により研修を受け入れた。  
なお、先進地視察は、新型コロナウイルス感染症対策により実施できなかった。

## （１）研修会への参加

### 取り組み内容

研修会：令和２年度地域包括ケアシステム構築加速化支援事業  
（在宅医療・介護連携推進に関する情報交換会）

主催者：長崎県長寿社会課（県内8圏域及び県によるTV会議）

日時場所：令和２年１１月１２日 大村市医師会館

講師：埼玉県立大学大学院 研究開発センター 川越雅弘教授

研修内容：事業マネジメントの基本的な考え方と進め方



### 成果と課題

- ・在宅医療・介護連携の課題を解決する手段（PDCAサイクル）により、目的を明確にすること。マネジメントの流れは、目的⇒目標⇒手段の順に考察するなど考え方、進め方など現状に即した研修であった。
- ・8圏域が実施している事業について意見交換を行い、各市町と情報共有及び意見交換ができた。
- ・医療介護連携推進事業では、行政、三師会、介護事業者等と意見交換し、課題の把握と情報共有及び課題解決に向けた取り組みが必要。出来ることから始めていく必要がある。

## （２）研修等受け入れ

### 取り組み内容

①西陵高校フィールドワーク受け入れ（令和２年１０月９日）

生徒５名の「フィールドワーク（地域課題への取り組み・現地実習）研修」を受け入れた。当センターの業務内容の説明や事前に提出された質問内容に沿って対応した。

②県立看護学校専門課程３年生への講義（令和２年１１月１２日）

テーマ：「在宅療養者の視点で医療介護連携を考える」



### 成果と課題

地域包括ケアシステムや在宅医療・介護連携推進事業について、当センターの役割等、各担当者が説明。病院等の看護師として入院患者の退院後の生活をイメージし、在宅医療・介護関係者と共に、在宅療養者を支えるという視点を持てるような内容とした。





## キ 地域住民への普及啓発

### ① 医療と介護に関する市民講演会の開催（資料7）

医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活が出来る「在宅医療」について、理解を深めてもらうことを目的に、三師会の先生方及び市高齢介護課と連携し市民講演会を開催した。

ホームページ掲載



### 取り組み内容

日時 令和2年11月14日 午後2時から4時まで  
 場所 有喜ふれあい会館  
 対象者 有喜地区にお住まいの皆さん 参加者 20名  
 テーマ 在宅医療ってなあに～あなたを支える医療と介護  
 【講師】  
 高齢介護課 米田健二様 ご存知ですか？介護保険  
 藤原医院 藤原隆様 在宅医療から看取りまで  
 増山歯科医院 増山隆一様  
 歯科からの提案～お口の問題と地域連携～  
 そうごう薬局諫早小野町店 高山明美様  
 薬剤師も在宅へ訪問します

令和2年度 在宅医療と介護の  
**市民講演会**  
**在宅医療**ってなあに？  
 ～あなたを支える医療と介護～  
 今は大丈夫・・・  
 でも、これからのことを一緒に考えてみませんか？  
**定員 70名**  
**日時** 令和2年 **11月14日(土) 14:00～(受付 13:00～)**  
**会場** 有喜ふれあい会館 多目的ホール  
**対象者** 有喜地区にお住まいの皆さん **申込不要 参加無料**

### かかりつけ医とは

- ◆急性期の病気の初診
- ◆慢性期の病気の治療
- ◆家族の健康相談
- ◆病院のバックアップを持つてる
- ◆在宅診療をしているか

### 講演内容

行政から介護保険の申請方法などの説明の後、藤原先生よりかかりつけ医を持つことや、最期までどのように暮らしていくか事前に考えておくことの大切さについて、講演された。増山先生からはオーラルフレイル予防や訪問歯科診療の実際について、また高山先生からは、薬剤師も訪問することやかかりつけ薬剤師を活用することなどをご講演いただいた。

### 【アンケートでのご意見】

- ・専門職の説明のポイントが良く、さらに理解が深まった
- ・これからのことを家族で話し合っていきたいと思った
- ・たくさんのサポートの方がおられ安心した

虚弱(Frailty) ⇒ フレイル

① 中間の時期 (⇒健康と要介護の間)  
 ② 可逆性 (⇒様々な機能を戻せる)  
 ③ 多面的 (⇒色々な側面)

心理的フレイル 社会的フレイル  
 身体的フレイル

生活習慣を見直し、フレイル予防！

図1-2 虚弱(Frailty) → フレイル  
 出典：東京大学高齢社会総合研究機構・藤原隆次 特許  
 高齢化研究におけるオーラルフレイルの定義とメカニズム(2019年9月)

### 薬のことで困っていませんか？

- ・薬の管理が出来ない
- ・飲み忘れてしまう
- ・飲みづらい、飲んでくれない
- ・服薬の介助に時間がかかる
- ・錠剤をつぶして飲んでも大丈夫？
- ・飲み合わせは大丈夫？



### 成果と課題

- ・コロナウイルス感染症対策として、定員を収容人数の半数以下に設定し、検温や手指消毒、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、換気を行い開催できた。
- ・コロナ禍で積極的に集客が図れない中、多くの市民へどのように普及啓発していくのか今後の課題である。

## キ 地域住民への普及啓発

### ② 医療と介護のお気軽座談会の開催 (資料8)

概ね10名以上の地域の団体やグループの市民を対象に、在宅医療や介護への理解を深めてもらうことを目的に、「医療と介護のお気軽座談会」を開催した。

FAXお申込み用紙 FAX 0957-46-3167

医療と介護のお気軽座談会申込書 令和 年 月 日

諫早市在宅医療・介護連携支援センター行 団体等の名称 \_\_\_\_\_

代表者名 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話番号 \_\_\_\_\_

次のおと、申し込みます。

団体等の概要	
希望日時	第1希望日 令和 年 月 日 ( 曜日) 時 分 ~ 時 分 第2希望日 令和 年 月 日 ( 曜日) 時 分 ~ 時 分
会場	会場名: _____ 住所: _____
参加人数	名 (男性: 名) (女性: 名)
ご要望	特に聞きたいことがありましたらご記入ください。

## 取り組み内容

### 令和2年度開催状況

	開催日	会場	参加者
第1回	7月2日	船津公民館	17名
第2回	10月23日	原口公民館	12名
第3回	12月10日	健康福祉センター	15名
第4回	2月8日	中尾町公民館	16名
第5回	2月20日	下大渡野町構造改善センター	16名
		合計	76名

## 成果と課題

- ・座談会開催にあたり、代表者と会場の事前確認を行い、スムーズな設営につながった。
- ・お気軽座談会は、参加者と気軽に質問や話し合いができる和やかな場づくりができた。
- ・多くの市民に医療と介護について普及啓発するために、自治会長会議等で「お気軽座談会」を開催していることを周知していく必要がある。

※これまでの市民講演会やお気軽座談会のアンケート集計及びご意見等を取り纏めた。

(参考3)

